

# 令和2年度 学校自己評価システムシート (滑川町立滑川中学校)

目指す学校像	笑顔と幸せがあふれる滑川中学校
--------	-----------------

重点目標	1, 基礎的な知識・技能の定着を図り生徒一人一人が力をつける学習指導の充実 2, 全教育活動における生徒理解を基盤とした組織的・系統的・積極的な生徒指導の推進 3, 生徒・教職員の動きが地域社会に信頼感を生み出し、地域とともにある学校づくりの推進 4, 自分を見つめた進路選択のための系統的なキャリア教育の推進
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	2名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価(1月25日現在)		
年 度 目 標					年度評価(1月25日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【学習指導の充実】</p> <p>授業には落ち着いた態度で取り組み、学習に対する意欲も高い。県の学力学習状況調査の質問紙調査では、「勉強して分らないところがあったら先生に聞く」「勉強で分からないところはやり方を工夫する」の項目の値が低く、能動的に学習する習慣が身に付いていない。</p>	<p>学力向上を目指した主体的・対話的で深い学びを実現するため</p> <p>の授業改善</p> <p>①積極的な参加 ②話し合い活動 ③積極的に聞く ④家庭学習の充実</p>	<p>①全教科において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、指導者を招いた授業研究を行う。 ②話し合い活動やグループ活動へ意欲を持って取り組むための教材の工夫、やり方を工夫する。 ③自主学習の計画の立て方や方法について、学年や教科ごとに事例を提示する。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症予防対応と新しい学校生活に向けた取組によると安心安全な教育課程の推進ができた。</p> <p>【各項目ごと達成度参照】</p>	<p>①西部教育事務所より指導者を招いてより良い授業づくりについて協議を重ねた。生徒への発問の仕方工夫やICTなどの教材活用を全教科で進め、県学調においても平均を大きく上回る成果を出せた。 ②各教科において教科会を複数回実施し、日々の実践の見直し、改善を徹底した。 ③1時間以上家庭学習に取り組む生徒が全体の約60%を占めており、高い水準を維持できている。</p>	A A B	<p>①～③すべてにおいて、来年度以降の新教科書に基づいた授業展開と、生徒の理解度や取り組みの進捗状況の把握を含め各教科で対応していかなければならない。 ③においては「1時間以上自主学習に取り組んでいる」項目に対して、B(だいたい当てはまる)と解答する生徒が約15%を占めており、自主学習ノートの活用等で学習状況の見える化を図る必要がある。</p>
2	<p>【生徒指導の推進】</p> <p>学校生活におけるルールを守る、誰にでもあいさつするなどの規律ある態度、基本的な生活習慣は身に付いている。コミュニケーション能力の低さから友人との些細なトラブルが増えている。</p>	<p>豊かな人権感覚の醸成と望ましい人間関係づくりの推進</p> <p>①挨拶・ルール ②他の意見尊重 ③清掃・美化 ④協力・認め合い</p>	<p>①計画的にソーシャルスキルトレーニングやアサーショントレーニング等を実施、自己肯定感を高めるとともに他者を理解し、コミュニケーション能力を高めるスキルを身に付けさせる。 ②新型コロナウイルス感染症予防を徹底し、安心安全な学校生活を確立する。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症予防対応と新しい学校生活に向けた取組によると安心安全な教育課程の推進ができた。</p> <p>【各項目ごと達成度参照】</p>	<p>①ほぼ達成できている。自信をもってあいさつや掃除に取り組んでいる生徒が多い。 ②ほぼ達成できている。AB評価が8割を超えている。しかし、学年が上がるにつれてCD評価の生徒が増えている。</p>	A A	<p>①生徒の自己肯定感やコミュニケーションスキルの向上が見られたが、不登校生徒を一人でも減らす必要がある。 ②安心安全な学校生活に終わりはなく、今以上に感染予防を徹底する。また、手洗い、消毒、3密防止などの意識を高める指導をきめ細やかに行うことが大切になる。</p>
3	<p>【地域と共にある学校づくり】</p> <p>ひまわりの里づくり活動では、町の公共施設や職場体験でお世話になった事業所などに拡大を図ることができたが、活動の意義や目的の理解が不十分なまま活動に取り組んでいる。</p>	<p>地域の教育力(施設や人材等)を積極的に活用し、学びと人間関係のネットワークを広げる。</p> <p>①地域と交流 ②地域で挨拶 ③学校の様子 ④地域行事に参加</p>	<p>①「ひまわりの里づくり」活動の意義や目的を理解するとともに、地域との関わりを重視した活動にする。 ②学校だよりや「ひまわりの里づくり」通信を活用し、学校と地域の連携した取組について地域に発信していく。 ③地域学校協働本部の立ち上げに向けた準備を進める。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症予防対応と新しい学校生活に向けた取組によると安心安全な教育課程の推進ができた。</p> <p>【各項目ごと達成度参照】</p>	<p>①本年度は、新型コロナウイルス感染症対策から生徒が戸別配布や活動場所へ行っている活動ができていなかった。しかし、老人クラブの協力により「ひまわりの里づくり」活動は行うことができた。 ②アンケート3-③では、保護者の90%以上がA,Bであり、通信により学校の様子を把握できている。 ③校舎の整理等を行ったり、学校運営協議会の設置に向けた準備を行っている。</p>	B A B	<p>①アンケート3-④でC,Dと回答する生徒が、51%と地域行事等に積極的に参加できていない。「ひまわりの里づくり」活動と連動して、自分の地区に貢献する活動等を計画・実施することで地域活動にも取り組む意欲が高まる。 ②3-③で22%の生徒がC,Dと回答しており、通信を利用した家族とのコミュニケーションが不足している。相互のやり取りのできる通信を発行する等の工夫が必要である。 ③地域学校協働本部についての周知が不十分であるので、校内研修を通して教職員への理解を深める。</p>
4	<p>【キャリア教育の推進】</p> <p>「出前授業」「小中合同授業研究会」を実施するなど、小・中・高の連携が積極的に行われている。 各学年に応じた進路に関する情報提供ができていますが、提供した情報を基に家庭において将来について話し合う機会は十分とはいえない。</p>	<p>各学年が進路情報の共有を図り、系統的な進路指導を行う</p> <p>①進路だよりの適切な発信 ②適切な進路学習 ③自分の将来について考察 ④進路について家族との会話</p>	<p>①今できる小・中・高等学校との連携を模索し、連携を図る。 ②各学年の進路学習で、新しい学校生活での発達段階に応じた効果的な活動を模索しキャリア教育を推進する ③今できる社会体験チャレンジ事業を通して、望ましい勤労観や職業観を持たせ。 ④キャリアパスポートの準備をすすめる。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症予防対応と新しい学校生活に向けた取組によると安心安全な教育課程の推進ができた。</p> <p>【各項目ごと達成度参照】</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症予防のため、できる範囲で取り組んでいる。吹奏楽部が小学校に出席して、演奏するなど引き続き行っていきたい。 ②学年に応じて、職業調べや高校調べ、入試の制度について授業を行い、系統的な進路指導ができていく。 ③新型コロナウイルス感染症予防のため、今年度は実施しなかった。 ④キャリアパスポートについては各小中学校、教育委員会と連携して作成した。</p>	A A D A	<p>学校での進路学習、進路に関する配付物等をきっかけにして、自分の進路について家庭で話し合う機会が増えたについて、8割を下回っているので、1・2年生は三者面談等で話題に出したり、進路だより等の文書で話すきっかけづくりをするなどの工夫が必要である。</p>

学校関係者評価	実施日 令和3年2月2日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>新型コロナ感染症対策の中、生徒の学力向上のため先生方が熱心に取り組んでいる様子うかがえる。 生徒の学力をつけるにはそれを指導する教員の授業力を向上させることが不可欠である。そのため、定期的な研究授業はコロナ禍であってもぜひ実施したい。 GIGAスクール構想で、ICTやリモート環境が充実するが、アナログの良さを十分理解し、バランスよく活用し、効果を上げてほしい。</p> <p>生徒理解をしっかりと行い生徒のコミュニケーション能力を向上させてほしい。 言われたことだけをやるのでなく、気配りができるような体験が必要。 他の人の気持ちがわかる・思いやれる・そんな心の触れ合いが体験活動を通して学ぶことができるような取組を教育活動に組み込んでほしい。 リモート授業を確立し、不登校生徒が授業を受けられるよう確立する。</p> <p>町を愛する生徒の育成を目指し、学校・家庭・地域の連携を深めていきたい。教育活動の中に、地域の文化財を知る授業や地域の教育力を活用する内容を総合的学習の時間に組み込むなど改善が望まれる。地域の文化財展示などを校内で実施するなどの工夫が来年度必要と思われる。 コロナ禍のひまわりの里づくり活動は、今後も状況を考え改善が必要。地域の御老人も協力いただくことで、より活動が活性化するため、より一層活動に協力していただく。</p> <p>コロナ禍で、みんなと会うことの大切さ・話すことが心の安定にいかにか必要かを学んだ。そんな経験を意図的に作り上げていかなければ、コロナ禍でよりよい成長は出来ない。 来年度は、将来社会に出てから必要とされる経験を計画的に組み込む必要がある。 キャリアパスポートの活用を計画的にしっかり行う。 小・中・高の連携を可能な限り推進していきたい。</p>